

第2回富山市総合計画審議会「調整部会」 議事録

日時：2016年5月9日（月）14:00～

場所：富山市役所 第4委員会室

出席者：（順不同）

高木繁雄	富山商工会議所（部会長）
神川康子	富山大学理事・副学長
長尾治明	富山国際大学現代社会学部・教授
中村和之	富山大学経済学部学部長・教授
宮口侗迪	早稲田大学教育・総合科学学術院教授・文学博士
宮田伸朗	富山国際学園学事顧問

企画管理部 本田部長、西田次長、中田次長、前田参事、井村主幹

議事内容：

1. 開会
2. 部会長挨拶
3. 議事

- (1) 第2次富山市総合計画基本構想（案）の答申（案）について
- (2) パブリックコメントにおけるご意見と本市の考え方について

委員

- ・ 答申（案）はよくまとめられている。部会でもそうだったが、パブリックコメントでも指摘は細部にわたっている。答申（案）の方向性についてはまとまっている。
- ・ 答申の p.1「富山市に暮らす方」の「方」は方向性を示す「方：ホウ」なのか、人（方：カタ）なのかわからない。人であれば「方々」としたほうがよい。

委員

- ・ よくまとまっているので全体について特に言うことはない。協働・連携のところでも、一つの議論の中心にコミュニティとは地域内のつながりではなく、地域間のつながりが大事だと指摘があったが、それについても取り入れていただいている。
- ・ 変えてほしいということではないが、p.3の1総括的事項「地域の主体としての自覚と責任について」の4行目「とりわけ若い世代について」とあるが、すべての世代に言えることではないか。
- ・ p.4「③誰もが自立し安心して暮らせるまちづくり」で、「・・・20代での結婚・出産や子どもの学費の支援などに努められたい。」とあるが、20代で結婚・出産をすることを

推奨して支援するのか、20代で結婚・出産した方への支援なのかどちらなのか。

- ・ パブリックコメント 12、「理解できない英語が出てきます。」とあるが、よくいただく指摘。従来の日本語では表現しきれない部分があるので、こういう言葉を使うのだが、簡単に「()」して説明するのであればその言葉を使えばいいということになる。ブランディング、レジリエント・シティについてもきちんと説明して理解いただくことが今後の課題。

委員

- ・ 全体的な姿勢としては重みや誇り、自負というものが基調になっている。
- ・ 気になる点は p.2、1 総括的事項「少子高齢化と人口減少への対応について」で、「地域教育」とあるが、あまり見ない表現。「ふるさと教育」、「郷土教育」なのか、地域を学ぶ教育なのだと思うが、もう少し良い言い回しを。
- ・ p.3、2 個別事項の(1)「①すべての世代が学び活躍できるひとづくり」の「・・民間企業から講師を招くなど」とあるが、農業や地域づくりなどのエキスパートもいるので、ぜひ「地域からの講師」も加えてほしい。
- ・ p.3~4 (1)「②いつまでも元気で暮らせる健康づくり」で、地域型総合スポーツクラブ等の意識もあっていいのではないか。トップアスリートの育成なども視野に入れてもいいのでは。
- ・ p.4 (1)「③誰もが自立し安心して暮らせるまちづくり」の1行目2行目はバッシングに遭いかねない言い方。「2人以上の子どもを設けてもらうための対策」と言うよりも「希望する数の子供が産み育てられる」等、もう少しソフトな言い回しをしたほうがいいのでは。

委員

- ・ 方向性や総括で「魅力」という言葉を入れることは難しいかもしれないが、市民は「富山市の魅力とは何か」を認識すべきだと考えている。現状の魅力と今後理想とする「こんな魅力あるまちにしたい」等をまとめておく必要があるのでは。大学でも学生に富山の魅力とは何かを問いかけているが理解できていない。今後整理しておくべきである。
- ・ p.5 個別事項(3)「②観光・交流のまちづくり」で「・・医薬品をはじめとした産業観光もある。」とあるが、ものづくりの中心市であり、富山市の特徴を考えるならば産業観光をもっと表に出してはどうか。「産業観光“も”」ではなく、産業観光を中心とした固有のまちづくりを進め、企業でも産業観光施設というものを充実・強化していくべきではないか。市はガラス工芸についても施策を進めており、「④歴史・文化・芸術のまちづくり」でも「イベント」と記載があるが、本当に賑わいや産業を考えるならば、ガラスを売る常設店が中心部に必要ではないか。

委員

- ・ p.2 1 総括的事項「少子高齢化と人口減少への対応について」で、「・・結婚して、子

供を産み、育てたいと思える地域教育」とあるが、「地域の雰囲気醸成」や「支えあう仕組み」等、もう少し社会的に柔らかい言い方にしたほうがよい。

- ・ p.2、1 総括的事項「コンパクトシティ政策と中山間地の振興について」で、「・・・超高齢化の集落や限界集落における生活支援体制」とあるが、限界集落という言葉はまだ公用語になっていないはずだ。「限界“的”集落」等にぼかすべき。
- ・ p.3、1 総括的事項「富山市の強みを活かした展開について」、富山の魅力は経済力と自然の豊かさが両方あること。特に経済力については文献（データ）を見るとすごいところだということがわかる。そういうことも産業観光につながる。
- ・ p.3、1 総括的事項「地域の主体としての自覚と責任について」、市民が主体的に登場するためにはモチベーションを上げなければいけない。そのためのワークショップ等の会合を介しての働きかけが世間では行われている。そのような直接市がどう働きかけるかが一言入るといいのでは。
- ・ p.4、2 個別事項（1）「③誰もが自立し安心して暮らせるまちづくり」で、「・・・結婚対策や2人以上の子どもをもうけてもらう」の2人以上の子どもと単純に言うのはどうかと思う。
- ・ p.5、2 個別事項（4）「①市民協働による共生社会づくり」で、「・・・情報交換や交流の場の提供など」とあるが、市が市民の活動をプロモートするような、例えばまちづくり会社や市民プラザなど様々な組織等の活用について、具体的な道筋が浮かぶ表現が入らないか。
- ・ p.6、2 個別事項（4）「③しなやかな行政づくり」で、「・・・市民や民間の活力を有効活用する仕組み」の後に「行財政改革の推進」とあるが、行財政改革と言ってしまおうと堅い。「有効活用する」の後に、「柔軟な仕組みづくり」等を入れてはどうか。節約はしつつも新しい動きが生まれる等柔軟に動いていくような雰囲気が良いのでは。

委員

- ・ まず第1はパブリックコメントで指摘のあったとおり、公式な用語定義、用語解説集を作るべき。
- ・ 「子供を産む」はやめて、「結婚して子供を育てたい」にした方がよい。
- ・ p.3、1 総括的事項「地域の主体としての自覚と責任について」の「とりわけ若い世代」はやめた方がよい。「各世代」等にすべき。
- ・ p.3、2 個別事項（1）「①すべての世代が学び活躍できるひとづくり」の「・・・民間企業から講師を招く」は地域からも招くことを考慮して「民間企業等」に。
- ・ p.4「③誰もが自立し安心して暮らせるまちづくり」の「・・・2人以上の子どもをもうけてもらう」はやめて、希望出生率を目指してとしたほうがいいのでは。
- ・ 富山の魅力についても定義が必要。経済的な魅力として富山は水と米がうまい、働く場がある等がある。産業観光も重要。
- ・ p.6、2 個別事項（4）「③しなやかな行政づくり」の「行財政改革」について、一層削

るというより無駄をなくし、効率に留意していく。行財政改革というとにかく削るという印象を与える。

事務局

- ・ 「限界集落」等、用語の定義について明確にしたい。また、表現の精度を高めて、市民に違和感なく受け入れられる文体としたい。
- ・ 富山の魅力については、例えばモンドセレクション最高金賞の水がある、コンパクトシティなどで様々な賞をいただいていること等をまとめてみたい。
- ・ 産業観光に言及された中で、富山は工業出荷額が新潟を超えている。学生人口は金沢に負けているが、数年後（の年代で）は逆転する。つまり職場があるということ。そういう意味の豊かさも含めた富山の魅力というものを収斂させていきたい。

委員

- ・ パブリックコメント2の小中学校の統廃合についての意見に対しての回答は逃げられたというような印象を与える。適正規模や教育的効果という観点からも「20人に満たない入学生」というのは問題。コメントを寄せられた方も相当な危機感を持っているということではないか。

事務局

- ・ 複式学級の有無についても考慮しつつ、教育委員会等と検討を進めたい。

以上